三重県議会議員
いしがき　ともや
石垣 智矢

県政活動報告

智の輪

TOMO-NO-WA

～ 地域の輪が次の時代を創る ～



Vol.6　2024年（令和6年）　春号

編集・発行責任者 / 石垣智矢　住所 / 三重県員弁郡東員町北大社801
TEL・FAX / 0594-41-2477　E-mail / toinman1105@gmail.com

令和６年度当初予算

「こども・未来まもる予算」　一般会計 8,050億8,670万円！

1点目　子どもたちの輝く未来の実現　165億円（対前年度10.9%増）

子ども支援の関連予算をまとめた「みえ子どもまるごと支援パッケージ」の充実に要する経費など

2点目　実効性のある人口減少対策の推進　118億円（対前年度4.5%増）

ジェンダーギャップの解消や人口還流の促進に要する経費など

3点目　時代の変化と潮流を捉えた産業振興　476億円（対前年度1.7%増）

人材確保対策の推進や産業の成長と創出への支援に要する経費など

4点目　観光振興と三重の魅力のプロモーション　32億円（対前年度14.8%増）

世界遺産登録20周年の熊野古道伊勢路の魅力向上や質が高く持続可能な観光地づくりに要する経費など

5点目　いのちを守り、暮らしを支える取り組み　1,968億円（対前年度4.0%増）

南海トラフ地震や激甚化・頻発化する風水害に対する防災・減災対策の促進や医療・介護の充実に要する経費など

また公共事業では、防災・減災、県土強靭化に強力に取り組むとともに、暮らしの安全・安心につながる河川・砂防ダムの堆積土砂の計画的な撤去に要する経費などで916億円。

令和５年度３月 石垣ともや一般質問

① 国道421号大安ICアクセス道路事業におけるストック効果について
② 令和７年の戦後８０年を迎えるに当たって
③ ベトナムとの交流について
④ ネットトラブルから子どもたちを守るために

①国道421号大安ICアクセス道路事業におけるストック効果について



問　一般国道421号は、桑名市の国道1号を起点に東員町・いなべ市を経て、滋賀県まで延びる幹線道路であり、地域の生活道路や企業・工場などの産業道路として、北勢エリアでも重要な役割を担う道路となっています。

私の昨年6月の一般質問で、国道421号を含めたアクセス道路の整備促進についてお願いをさせていただきましたが、その後の12月の国土強靭化関連予算の確保により、国道421号アクセス道路事業に多額の補正予算をつけていただき、完成見通しが3ヶ月も前倒しとなりました。（令和６年内の完成見通し）国道421号が整備されれば、二級河川である員弁川を渡河するいなべ大橋が新たに整備されるため、現道の三笠橋で慢性的に発生している交通渋滞の緩和に大きな期待が寄せられています。周辺には多くの従業員を抱える大手企業も多数存在しているため、ストック効果は絶大なものがあると考えますが、本県の考える国道421号大安ICアクセス道路事業におけるストック効果について伺います。

答　若尾県土整備部長

アクセス道路の整備により、朝夕を中心に発生している交通渋滞の緩和を図るとともに、大安ICへのアクセス向上によって、産業集積地である当地域への交通利便性も改善され、地域産業の支援が期待されます。さらに第一次緊急輸送道路である東海環状自動車道へアクセスする新たな輸送路を増やすことで、災害時の輸送機能の強化も図れるものと考えます。

加えて、周辺のキャンプ場や公園などの自然を活かした観光産業のさらなる活性化が期待されるなど、沿線地域への様々な整備効果が期待できると考えています。東海環状自動車道の開通に遅れないよう、令和6年内の開通に向けて安全第一で進めていきます。

②令和７年の戦後80年を迎えるに当たって



沖縄三重の塔

問　**(1) 戦後80年を迎えるに当たっての知事の思い**

1945年（昭和20年）に第二次世界大戦が終結してから、令和7年で80年の節目の年を迎えます。戦後80年に向けた取り組みは、各市町や地域の遺族会ではすでに動き出しており、員弁地区遺族会（いなべ市・東員町）では、日頃より平和啓蒙活動に取り組まれ、新しい組織の発会や平和の鐘モニュメントの設置など、次世代に平和の思いをつなぐ継承事業が行われています。二度と悲惨な戦争を繰り返さないためにも、戦争の教訓を風化させることなく、平和の尊さや大切さを次世代に語り継いでいくことが、今を生きる私たちの最大の使命です。令和７年の戦後80年を迎えるに当たって、平和政策や戦後80年の祈念事業等も含めて知事の思いをお聞かせください。

答　一見三重県知事

戦争は、都市や自然環境を破壊するだけではなく、最も大事な命・財産を奪い尽くすものであり、先の大戦でも、その命をふるさとや家族、国を守るために捧げた方もおられます。沖縄県に設置している「三重の塔」には、大戦で犠牲になられた三重県民約53,000柱が合祀されており、昨年11月に実施した戦没者慰霊式では、多くの三重県民の方々にお越しいただいたことに感謝いたします。参列されたご遺族代表の追悼の言葉を聞き、私も目頭を熱くしたことをはっきりと覚えています。ご遺族の皆さまにおかれては、最愛のご家族を亡くされ、深い悲しみの中でも困難を乗り越えられてきたことに深く敬意を表すところです。戦争の回避は政治家の覚悟にかかっていると考えます。決して戦争を起こさないという決意を持って政治に当たること、また戦争の悲惨さを記録として残していくことも政治に課せられた使命です。令和７年度には戦後80年を迎えますが、多くの皆さんが平和について考え、行動していただくきっかけとなるような取り組みに努めていきます。

また、令和７年度の戦没者慰霊式までに沖縄「三重の塔」の環境整備を進め、平和を希求する思いを強めていただく機会の提供に努めていきます。

問　**(2) 沖縄「三重の塔」の環境整備について**

沖縄「三重の塔」は、昭和40年６月に三重県が設置し、地は沖縄ですが三重県が所有・管理を行っています。昭和53年度以降、三重県出身者の戦没者慰霊式が原則毎年執り行われていますが、設置からすでに58年が経過しており、狭い通路や段差などもあることから、三重県遺族会などからも改修してほしいとの声が多く寄せられています。沖縄戦最後の戦闘地・激戦地である摩文仁（まぶに）の丘に建つ三重の塔の建立趣旨や、慰霊式が継続されてきた意味を深く理解した上で、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代へ継承するために、沖縄「三重の塔」をどのような考え・方向性のもとで環境整備に取り組まれるのか伺います。

答　中村子ども福祉部長

沖縄県営平和祈念公園内の「三重の塔」は、三重県民約53,000柱を慰霊するため、多くの県民の皆さんや市町村、団体等からの寄付を受けて昭和40年に整備された施設です。「三重の塔」の苑内は、石橋や築山などでふるさとの五十鈴川や鈴鹿の山々を表現した造りとなっています。

一方で、慰霊式を行う十分なスペースがなく、段差なども多いことから、三重県遺族会からは段差の解消などの環境整備の要望をいただいております。県としては、今後もご遺族や市町の方々とともに、沖縄の地で慰霊式を開催することが、戦争の悲惨さと平和の尊さを継承していく上で重要であると考えています。今回の整備では、訪れる全ての方々が安全に利用できるように支障となる工作物を撤去し、バリアフリー化を図るとともに、慰霊式等を行う十分なスペースを確保する予定です。

戦後80年に向けて、より多くの方々に「三重の塔」にお越しいただけるよう環境整備を図り、戦没者に対する慰霊や平和への思いを次世代につなげていきます。

③ベトナムとの交流について



ヒエウ駐日ベトナム大使対談

問　本県の外国人住民数は62,561人（令和5年12月末時点）で、過去最多の総数となり、その国籍は１位がブラジル、２位がベトナムで以下フィリピン、中国、韓国と続いています。その中でもベトナムは、12,639人と13年連続で増加しており、令和 5年は前年比 +18.3%と最も増加数が多い国でありました。本県では令和4年に在三重県ベトナム名誉領事館が鈴鹿市に開所され、また昨年９月には日本とベトナムとの関係樹立50周年の節目であったため、ベトナムとの友好関係構築の機運が高まっています。

三重県議会でも、令和4年度に日越友好議員連盟が発足し、ベトナムセミナーの誘致やベトナム大使館でのヒエウ大使との意見交換、また今年１月には日越友好議員連盟でベトナムを訪問し、現地での交流促進も行っていただきました。令和6年度当初予算でもベトナムに関連する新規事業等がありますが、相互発展に繋げるためのベトナムとの交流をどのように行うのか伺います。

答　後田政策企画部長

三重県とベトナムは、県内企業の進出や四日市港からの定期航路など、ビジネス面での強い結びつきがあり、ジェトロ三重が実施した三重県事業所アンケートでも、海外進出先として興味のある国としてベトナムは２位となっています。また県内在住のベトナム人は、技能実習などの労働目的で来県されていることが多く、外国人人材の活用という観点からも、ベトナムとの交流は重要と考えています。来年度は、県内在住の外国人と県民が交流できるフォーラムを開催予定であり、ベトナムの文化などに対する理解を深める機会にしたいと考えています。また今後の方向性は、他の都道府県で行われているベトナムフェスティバルの開催も含めて、どのような交流が図れるのかを駐日ベトナム大使館などのご協力をいただきながら検討していきます。

④ネットトラブルから子どもたちを守るために

問　**(1) SNSをはじめインターネットに起因する子どもの犯罪被害への対策について**

警察庁が発表するSNSに起因する事犯の被害児童数は、令和4年は1,732人と前年比4.4%減ではありましたが、重要犯罪の被害は前年比12.1%増の158人と過去最多となっています。ネット犯罪の被害に巻き込まれないために、家庭・学校・警察や地域が連携して、社会総がかりで子どもたちをネット犯罪から守る取り組みが必要だと考えますが、本県の子どもたちのネット被害の現状と、その課題をどのように捉えて今後の対策につなげるのか警察本部長に伺います。

答　難波警察本部長

SNSに起因する性的犯罪や略取誘拐等の重要犯罪被害は、昨年県内では23人が被害に遭っています。

その一方で、少年が加害者になる実態もあり、犯罪実行者募集情報「闇バイト」に応募して強盗や特殊詐欺の犯罪に加担していたとみられる少年１人を昨年検挙しました。これらの人数は、未検挙の事件や被害の届出に至っていない事件が潜在している可能性があるため、危惧される状況です。また昨年、県内高校生3,000人に犯罪実行者募集情報「闇バイト」の認知度アンケートを実施したところ、『高額報酬アルバイトに連絡する』と答えた割合が50人に１人とかなり高く、実態や危険性の知識が浸透していないことが明らかになりました。

県警察では、サイバーパトロールの強化等を図るとともに、今後は少年サポートセンターの相談受理体制の強化や犯行手口をマンガで分かりやすく周知する広報など、子どもたちを被害者にも加害者にもさせない対策を推進していきます。

問　**(2) 学校での情報リテラシー教育及び保護者に向けた啓発を**

ネット犯罪の形は年々多様化、複雑化しており、近年ではあらゆるネット犯罪の手口が横行しています。ネット犯罪から子どもたちを守るためには、子ども自身に情報を正しく理解・分析・発信する力を身につける情報リテラシー教育が必要だと考えます。学校での情報リテラシー教育について、本県の考え方と今後の取組について伺います。

また保護者自身がインターネットやネット犯罪についての知識や技術を習得することも大事であり、子どものネット利用時間や閲覧制限、課金制限など、保護者が「ペアレンタルコントロール」によって子どものスマホ利用を適切に管理することが重要だと考えます。保護者への啓発をどのように行っていくのか。

答　福永三重県教育委員会教育長

本県の子どものインターネットによるいじめや犯罪被害は、令和４年度で309件と５年間で２.３倍に増加しています。教育委員会としても、学校と家庭が連携して指導や見守りを行うとともに、子ども自身に情報活用能力を身につけることが重要だと考えています。小中学校では「道徳」と「技術・家庭」で、高等学校では「情報」科目でネットマナーやインターネット利用の危険性について学習しており、今後は文部科学省や警察などから提供される教材や講座を情報共有し、各学校で教育活動全体を通した情報モラル教育が進められるように取り組みます。



保護者に向けては、家庭でのルールづくりやフィルタリングの利用について各学校から働きかけるとともに、警察や情報通信に関する事業者の協力を得て保護者対象の研修会を実施しています。

今後は、保護者向けの新たなリーフレットを作成し、ネットトラブルから子どもたちを守る継続した啓発に取り組みます。

一般国道421号線の道路整備事業に多額の補正予算をつけていただきました。

昨年６月の一般質問でも取り上げた「一般国道421号線バイパス道路整備事業」に、国土強靭化予算の大幅な確保により、多額の補正予算をつけていただきました。これにより完成見通しが従来より3ヶ月も前倒しされます。

大安ICへのアクセス性が向上することにより、産業集積地であるいなべ地域の産業支援、災害時の輸送機能の強化、三笠橋を含めた近隣地域の慢性的な渋滞緩和など、様々な影響が見込まれています。

『従来：令和７年３月31日の完成見通し→令和６年12月31日の完成見通しに前倒し』




建設中のいなべ大橋で桑名建設事務所長から説明を受ける様子



五十鈴中学校合唱部による議場演奏会を開催！！

県民に開かれた三重県議会を目指すため、また将来の文化の担い手となる若者の芸術文化振興に資するために、7年連続で全国大会に出場し、令和５年度全日本合唱コンクール全国大会で銀賞を受賞した「五十鈴中学校合唱部」の皆さんに合唱を披露していただきました。

議場での演奏会は、皇學館大学雅楽部が披露した令和４年3月に続いて２度目となります。

優雅な声が響き渡り、とても厳かな議場での合唱披露となりました。

今後も、若者の芸術文化振興に力を注ぐとともに、県民が参加しやすく、様々な角度から関心の持てる開かれた議会の実現に向けて取り組みます。



子どもを取り巻く様々な課題に対する提言書を作成し、一見知事に提言しました。

本県では、いじめ・不登校・児童虐待相談対応件数が過去最多となるほか、新型コロナウイルス感染症による子どもの心身への影響、子どもの貧困、ヤングケアラーといった新たな課題の顕在化など、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。


一見知事及び担当部長らへの申し入れ

国では令和5年にこども家庭庁が創設、こども基本法の制定やこども大綱が策定され、本県でも「三重県子ども条例」の改正や「三重県こども計画」の策定に向けた動きが本格化するなど、令和6年度は子ども施策をさらに進める重要な年を迎えることとなります。

三重県議会では、子どもの政策に関する喫緊の課題について、子どもに寄り添った政策立案及び政策提言を行う「子どもに関する政策討論会議」が設置されました。代表委員として、先進地の現地調査や参考人招致など計17回に渡る協議の末に提言書を作成し、一見知事に提言しました。

三重県は全国第3位のお茶の生産地！「伊勢茶」のさらなる取り組み推進を！！




マル信緑香園さんで説明を受ける様子

三重県はお茶の生産量・生産額が、静岡県、鹿児島県に次いで全国第３位です。三重県で生産されたお茶を「伊勢茶」と呼び、全国有数のお茶の生産地である本県のさらなる茶振興に繋げるため、令和４年度から伊勢茶振興計画に基づき取り組みが進められています。

三重県議会においても「茶業振興およびお茶の文化振興議員連盟」が発足し、今年度は茶市場の状況や伊勢茶の消費・販路拡大について鈴鹿市や四日市市、いなべ市の生産地で現地調査を行いました。

いなべ市では大安町のマル信緑香園さんにて、デカフェや茶スイーツ等の商品開発およびお茶カフェの取り組みについてお話を聞かせていただいたところです。

他にも三重県議会主催による「伊勢茶の歴史について」と題した勉強会の開催やヴィソンでの伊勢茶フェスの開催支援など、伊勢茶の魅力発信を議会として取り組み、一見知事には伊勢茶のさらなる取り組み推進について申し入れを行いました。

防災県土整備企業常任委員長としての動き

◆令和5年度近畿地方治水大会（和歌山県和歌山市）10月17日

和歌山県和歌山市で開催された近畿地方治水大会に三重県議会を代表して出席しました。近年、気候変動による短時間強雨や台風の大型化により、浸水被害が頻発しています。本県でも6月に線状降水帯が発生し、観測史上１位を記録する雨量が観測された地域もあり、防災・減災対策を今一度強力に進める必要があります。県民の生命と財産を守るために、今後も議会ならびに委員会審議を活性化させていきます。





◆令和5年度三重県消防殉職者慰霊祭（鈴鹿市消防学校慰霊碑前）10月25日

令和5年度三重県消防殉職者慰霊祭が行われ、三重県議会を代表して出席しました。殉職された45柱の生前のご功績に深く敬意と感謝を申し上げるとともに、御霊の尊い犠牲を無にすることなく、今後もより一層の災害対策および消防・防災力の強化に努めていきます。





◆近畿自動車道紀勢線建設促進協議会促進大会（東京都全国都市会館）11月17日

東京・全国都市会館で行われた近畿自動車道紀勢線建設促進協議会促進大会に三重県議会常任委員長として出席しました。三重・和歌山を唯一無二で結ぶ高速道路の早期開通に向けて力強い要望活動を行いました。北部には東海環状自動車道も残されておりますので、北部・南部ともに早期開通に向けて取り組みます。



◆令和８年度開通予定の東海環状自動車道における岐阜・三重県要望（岐阜県庁・三重県庁）11月26日、12月18日

岐阜県庁および三重県庁の両県で、岐阜・三重県境間東海環状自動車道建設促進協議会による要望活動を行いました。令和8年度開通に向けて、工事の着実な推進や必要事業費の確保など、国への強力な働きかけをお願いするとともに、さらなる建設促進に向けた意見交換をさせていただきました。１日も早い開通に向けて、引き続き三重・岐阜県が一丸となって取り組みます。



◆三重県建設業協会第9回災害対応訓練（尾鷲市）11月9日

三重県尾鷲市で行われた第9回三重県建設業協会災害対応訓練に三重県議会を代表して出席しました。大規模災害を想定し、ガレキ撤去や土嚢積み作業、段差解消訓練や排水ポンプ車配管組立作業など、600名を超える協会員の皆さんが懸命に作業に取り組まれていました。三重県議会でも10月に、豪雨災害等から身を守る関連予算を短期間で議決に結びつけたこともあり、防災・減災対策はスピード感を持って取り組むことが重要です。有事の際に必ずや活かされるであろう素晴らしい訓練を目の当たりにしました。





ごあいさつ

まず初めに、1月1日に発生した令和６年能登半島地震において、あらためて亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。被災地の支援はもちろんのこと、本県においても、今後起こり得る南海トラフ地震への対応を強力に進める必要があります。

令和6年度予算においても、津波避難タワーの整備支援や避難所の環境整備、三重県独自に防災アプリを開発する費用など、地震や風水害から県民の命を守るための予算を可決させていただきました。

他にも、緊急輸送道路となる幹線道路ネットワークの機能強化や河川等の堆積土砂の計画的な撤去など、暮らしの安全に繋がる予算も前年度より上乗せして確保することができました。

今後も皆様から貴重なご意見をお聞きしながら、素晴らしい三重県、素晴らしい故郷づくりに全力で取り組んでまいります。

引き続きのご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

石垣　智矢

現在の役職、主な所属

- 防災県土整備企業常任委員会　委員長
- 議会改革推進会議　幹事
- 子どもに関する政策討論会議　委員
- 三重県議会日越友好議員連盟　幹事長
- 茶業及びお茶の文化振興議員連盟　幹事
- 芸術・文化振興議員連盟　事務局長
- 自由民主党三重県支部連合会　青年局長

お気軽にお問い合せ下さい

三重県議会議員 石垣 智矢（ともや）事務所

〒511-0257 三重県員弁郡東員町北大社801番地

TEL/FAX：0594-41-2477　E-mail：toinman1105@gmail.com

ホームページ　Facebook　SHIYUANTOMOYA インスタ